

第6章 開放経済モデル 目標と学習要領（その2）

1 講義の目標

§ 4 開放経済における財政金融政策効果

- ① マンデル＝フレミングモデルが想定する経済では、固定相場制と変動相場制のそれぞれにおいて国際収支不均衡の調整がどのように行なわれるか確認しなさい。また IS－LM モデルを用いてそのメカニズムを説明しなさい。
- ② 固定為替相場制下の経済において、(i)景気対策としての財政政策ならびに金融政策の効果は閉鎖経済と比べてどのように変わるか。また(ii)通貨切り下げ政策や輸出保護・輸入規制といった措置は総需要拡大効果をもつかどうか説明しなさい。
- ③ 変動為替相場制（管理フロート制）下の経済において、(i)景気対策としての財政政策ならびに金融政策の効果は閉鎖経済と比べてどのように変わるか。また(ii)通貨切り下げ政策や輸出保護・輸入規制といった措置は総需要拡大効果をもつかどうか説明しなさい。

§ 5 為替レート変動の理論

- ① 実質為替レートとは何かを説明し、それを定式化しなさい。
- ② 財・サービス市場で一般物価による調整が行われるような「長期」を考えた場合、開放経済においても完全雇用は達成されるだろうか。固定相場制と変動相場制のそれぞれについて、対外不均衡の調整を考えながら説明しなさい。
- ③ 物価が伸縮的な「長期」において、金融政策は無効（貨幣は中立的）だといわれる。長期均衡状態において、例えば金融緩和のような貨幣的なショックは何ら影響を及ぼさないのだろうか。これを実質為替レートによる対外不均衡の調整という観点から説明しなさい。
- ④ ③のメカニズムにおいては、しばしば為替の「オーバーシュート」が起こるといわれる。オーバーシュートとは何か。またそれはどのような原因によって発生するかを説明しなさい。
- ⑤ マンデル＝フレミングモデルでは資産の完全代替という仮定によって自国利子率は海外利子率と等しくなるように調整される。現実には内外資産の代替は不完全であるといわれるが、それはなぜか。また資産の不完全代替をモデルに取り入れる場合、どのように定式化されるか答えなさい。
- ⑥ J－カーブ効果とは何か説明しなさい。また J－カーブ効果が発生する原因をいくつか挙げ、マーシャル＝ラーナー条件との関係について述べなさい。
- ⑦ その他、現実の為替レートが不安定に変動する性質を説明するうえで、マンデル＝フレミングモデルのようなマクロモデルにはどのような限界があると考えられるか。

[§ 6は省略します。]

2 資料・テキスト学習

・マンデル=フレミングモデルにおいて、対外不均衡（→内外金利差の発生）は、

(A) 固定為替相場制ではマネーサプライの変化（→ LM 曲線のシフト）

(B) 変動為替相場制では為替レートの変動（→ IS 曲線のシフト）

という形で調整される。それぞれについてはテキストの対応箇所をよく読んで理解するように。

※その結果、固定相場制では「IS 線を右（上）方にシフトさせる」政策だけが有効となり、逆に変動相場制では「LM 線を右（下）方にシフトさせる」政策だけが有効となることを確認して欲しい。

・「為替レートのオーバーシュート」については、P. 190 では簡単にしか触れられていないが、配布資料をもとに時間の経過と各変数の変化の関係を理解してほしい。

・「為替レートをめぐる議論」（P. 184～189）の部分は、講義では要点だけを整理するが、テキストでは興味深いトピックが多く取り上げられているのできちんと読んで理解を深めてほしい。

・§ 4・§ 5に関する補助資料を用いて復習をする場合には、各変数の変化と IS-LM（-BP）の図の関係を、順を追って確認するとよい（できれば自分で図を書きながら確認してほしい）。

<次回予告>

第7章 総需要と総供給

§ 1 AD 曲線の導出

§ 2 AS 曲線の導出

§ 3 マクロ経済政策と物価

§ 4 新古典派総合

キーワード：マークアップ原理，貨幣錯覚，実質残高効果，半インフレーション，真性インフレーション，新古典派総合